

ダルニー通信

083
2018 WINTER

特集

国際支援をもっと身近に

～気軽に参加してみませんか～

02 理事長巻頭言

「人は得るもので生計を立て、与えるもので人生を築く」

03 チャリティー茶会（表千家茶道教室 宗沁会）

11 文化祭「ぎんが祭」バザー（松本蟻ヶ崎高等学校）



04-05

新評議員・新理事のご紹介

06-07

生徒たちの日常

08

民際力 マンスリーサポートについて

10

洪水被害への支援活動(ラオス)

人は得るもので生計を立て、与えるもので人生を築く

ダルニー奨学金

公益財団法人民際センター 理事長 秋尾晃正

自分でもできる寄付、見える寄付

45歳で民際を起業した遅咲きの人生。こんなに多くの方々のご支援と30年もの月日を重ねるとは想像だにしなかった。先ず、自分にもでき、自分が納得でき、自分も一人の参加者になることができる制度を考えた。年一万円なら、私も参加できる。そして一人の生徒を卒業まで支援する使途が明確な制度。1987年、昭和62年のことだった。タイ側でも制度の確立をする。当時のタイ東北地方は、電話がないばかりか、電気が通っていない村々、舗装されていない道、でも、タイのスタッフとともにやり遂げた。

教育の機会が貧困削減

人は生まれる時、親、社会、国を選択できない。もし、自分があの子のように経済的貧困家庭、貧困社会に生まれたらと思うことがしばしばあった。あの子に教育を受ける機会が与えられれば一生懸命勉学に励み、親を楽にさせることができると思った。一人の生徒にのみならず農村の貧困削減には多くの奨学金が必要だった。朝日新聞の社会面に紹介され、一気に奨学金が増えた。小6から中1の進学率が20%だったが、毎年5%の伸びがみられた。小作人の子供がダルニー奨学金で中

学進学、自作農の子供も自費で中学進学するという相乗効果もたらした。

何故、国際でなく「民際」か？

国は税金・国債発行で、市民団体は寄付で、公益的な事業を行う。巨額な国債赤字国家、少子高齢化が進む日本が、今の姿。出口が見えない。

税制優遇措置のある日本の市民団体に寄付することで、税金の支出が少くなり、必要な公益活動に使われる。そのような寄付社会の形成が、日本の蘇生になると確信する。民際は税金である補助金を申請しない。民際が民際たる所以は、民の寄付（預かった財）を初期の目的に使用することである。

幸せはいつも自分の心がきめる

相田みつをの言葉である。生計のため働く日常生活の中で、縁もゆかりもない海外の生徒に奨学金を提供する非日常的なができるのは、ある意味で幸せだといえる。

チャーチルの名言、「与えるもので人生を築く」ごとく、与えることで、ノブレス・オブリージュの一環を担った気持になる。これが、ダルニー奨学金の醍醐味かもしれない。



富士山の麓、御殿場市にて 第12回 チャリティー茶会の開催 ～表千家茶道教室 宗沁会～

今年6月、静岡県御殿場市で茶道表千家宗沁会主催のチャリティー茶会が開催され、職員も参加しました。

茶道表千家宗沁会が指導する御殿場市民会館子供カルチャー教室で茶道を学ぶ、小学生から高校生までの生徒たちがお客様をおもてなしするお茶会です。小学生によるお点前もかわいらしく微笑ましいものでした。私も寄付きでお軸と香合の説明を受け、晴れがましくも正客の席から頑張っている子どもたちのお点前を拝見しお茶を頂戴しました。

お茶会の参加者は年齢性別国籍も幅広く、今年は御殿場市長も参加されていました。また受付の横には現在支援されている奨学生の証書やダルニー通信と共に茶会の意義をわかりやすく説明した掲示内容があり、よりラオスを身近に感じて頂こうとラオス料理の試食も用意されました。お茶券で得られた収益は、ラオスの子どもたちの支援に充てられます。職員もお客様にラオスの子どもたちの現状を説明させていただきました。



御殿場市長も参加したお茶会の様子

今年で12回目を迎え、地域の方々を巻き込みながら長く支援を続けてこられた宗沁会代表の野木美津子先生にお話を伺いました。

【民際センターを通じて支援をされることになったきっかけは?】

静岡新聞でダルニー奨学金の記事を見て興味を持ったのです。そこで当時早稲田に事務所を構えていた民際センターを訪問し支援の詳細を伺い、

ここならお任せ出来ると思いました。あれから12年もたったのですね。

【なぜ12年も続けてこられたのですか?】

日頃から茶道教室を主宰する身として、決めたことは揺るがず続けることを旨として実行しているので、その結果だと思います。

【子どもたちに何を伝えたいと思っていますか?】

茶道を通して日々のマナーを身に付けることの重要性と、人の為に何かをする心を伝えたいと思っています。12年続けるうちに最初に参加していた子どもたちも大きくなり、人様の役に立つ仕事に付きたいという夢に向かって実行努力している子もいます。その中には民際センターの職員の方から話を伺った事が切っ掛けで海外支援に興味を持った子もいます。

先生のやわらかい笑顔と親しみやすさの奥に、茶道を究めようとする方の芯の強さを見ることができました。

茶道を通じて思いやりの心を育てると共に、同年代の違う環境の子どもたちの現状を伝えようとする先生の姿勢に身の引き締まる思いで、靈峰富士の麓で催されたお茶会を後にしました。





新評議員と新理事の紹介

2018年2月の理事会より外部から新評議員1名と新理事1名の方に就任していました。今回はその方々の紹介をします。

新評議員

■ ■ 赤石 隆夫 (新潟ドナー連絡会・世話人)



【支援経歴】 1990年代初頭に学会発表のため、当時アジアの日本ODA最大支援国であるインドネシアや、中国への出張の機会がありました。当たり前のように進出日本企業の接待があり、そこで目にしたのは現地女性たちを用いた駐在員たちの「夜のご乱行」でした。戦時中の日本軍事力にも似た日本経済力の進出を恥じつつ毎回の帰国でした。そんな折に新聞記事で民際センターの存在を知りました。そして、奨学金ドナーとなることに全く迷いはありませんでした。20数年前のことです。

【現職】 3年前に新潟大学医学部を定年退職し、その後も同部局の総合医学教育センターにて医師養成教育を、2機関で看護師養成教育にも通年関わっています。また、「新潟ドナー連絡会」世話人、「にいがたNGOネットワーク」理事も兼ねています。

【評議員を引き受けた理由】 一介の奨学金ドナーであった私ですが、正直迷いました。しかし、全国ドナー連絡会の形骸化や、公益財団となった民際センターの新たなシステム作りに奔走する秋尾理事長や事務局の頑張りを観るにつれ、腹を括りました。

【民際センターの評議員として何がしたいか】 地方の声を届け、民際の活動の一助としたいとの想いは旧交ある佐久・遠州ドナー連絡会の世話人とも共有しています。しかし、評議員は執行機関である理事会へ提言・評価を届ける立場にあります。『日本のNGOは国際にはめっぽう強いが、国内にはめっぽう弱い』これは、JICAの研究報告で目にした一文です。全国には国際貢献を目指す数えきれない草の根グループが存在します。そして、民際にはこれらグループのハブとなり、彼らを途上国の支援活動に繋げてゆくノウハウが存在し、また、実際幾つかのグループの途上国支援に共同で当たってきた実績があります。このようなグループとの連携によって今後支援者を増やしてゆければと考えています。

新理事

■ 神村 正樹 (株式会社BUA代表取締役)



【経歴】大学最終年に何故か異文化に触れたくて、約1年間インドを放浪。帰国後、当時は不人気でしたIT関連のシステム開発会社に一旦は就職しましたが、その後も東南アジア各国の文化に惹かれ、毎年旅行を続けてまいりました。気が付いたら独立し、ITシステムエンジニア、ITコンサルタントとして過ごし、毎年請け負う業務を通して、お客様と共に成長し、ここまできました。ただ、仕事に精進しつつも、心は東南アジアにあり続けた、というのが実感です。故に、EDF-THAI事務所があるバンコクは、旅の拠点であり、長年その変遷を見続けてきましたので、非常に身近で感慨深い場所となり、今後も生涯かかる機会のあるところではないかと思っております。

【現職】株式会社BUA (タイ語で蓮の花) を立ち上げ、代表者兼ITコンサルタントとして、日々奮闘しております。

【理事を引き受けた理由】民際センターとのお付き合いは、今年で30年目になります。丁度、結婚して子供が生まれたのを機にドナーとなり、その1年後には、ITボランティアとして参加し、途中数年のブランクはありましたが、子供の成長と共にかかわらせていただきました。更に、秋尾理事長の常人の域を超えた人柄にも共鳴し、これも何かのご縁と思い、今回お引き受けいたしました。

【民際センターの理事として何がしたいか】民際センターは、現在基盤のITシステムを再構築しようとしています。寄付データの管理は、一見簡単そうに見えますが、時代と共に寄付対象、寄付制度がかわり、長年使用してきたシステムを改修し対応するのも、限界に達したと考えています。今後は、当初のシステムを開発してきた一員として、次世代に引き継ぐお手伝いができるれば、これに勝る喜びはありません。

【まとめ】時代と共に変わりゆく寄付のあり方に寄り添いつつ、新しい世代に寄付文化が根づく一助となれば幸いです。どうぞ、よろしくお願ひいたします。

● 監 事	● 理 事	● 評 議 員	● 代 表 理 事
吉田 宗一郎 吉田公認会計士事務所 所長	阿部 純士 デイグランド株式会社代表取締役	赤石 隆夫 医学博士・新潟大学医学部総合医学教育センター 作家・社団法人日本ベンクラブ15代会長	秋尾 晃正
行方 一正 後藤 満 株式会社食生活代表取締役	安藤 昭太 株式会社カルミナ代表取締役	阿刀田 高 弁護士・小笠原六川国際総合法律事務所代表	
谷田 健一郎 ピーターフックス 立教大学観光学部特任教授	大島 仁志 神村 正樹 キリンビール株式会社元常務執行役員 株式会社BUA代表取締役	平野 健一郎 東京大学・早稲田大学名誉教授	衛藤 真規 サイタコーディネーション代表
(五十音順にて記述)	山下 大 情報印刷株式会社常務取締役	酒井 順子 建築家・加藤隆久都市建築事務所代表取締役	小笠原 耕司 小笠原六川国際総合法律事務所代表



生徒たちの日常

～ダルニー奨学生紹介～

ダルニー奨学金のおかげで、多くの子どもたちが学校に通うことができています。学校に通っている子どもたちが、普段どの様な生活をしているかをお伝えします。

【タイの奨学生】

～成績優秀なナット君～

ウドンタニ県に住むナットは、中学3年生の男の子です。彼の家はとても貧しく、財産といえば古びたオートバイが1台あるだけです。日雇いの仕事をしている両親にとって、仕事に使うバイクは欠かせません。1人いる兄は、家族を助けるために中学校を数年前に中退し、日雇いの仕事をしています。

中学校に通っているナットも、平日は放課後、週末は一日中働いています。学校から帰ると、牛乳配達の仕事にでかけます。1日2時間の仕事で、50バーツから100バーツ(約150円から300円)の日当がもら

えます。週末の稼ぎは、朝5時から1日働いて150バーツから200バーツ(約450円から600円)です。アルバイトで得た収入は、そのまま母親に渡し、学用品を買う時に必要な分だけもらいます。

働き詰めのナットですが、成績はとても優秀です。中学校1年と2年生の時は、常に3.95 (4.00点満点) を上回っています。

ナットは、家で宿題をする時間がないので、学校の休み時間に宿題を済ませてしまっています。

【ミャンマーの奨学生】

～将来は先生になりたい～

サンバンは、ヤンゴン市外のタンタビン地区の中学校に通っていて、現在2年生です。彼は、ミャンマーの東側にあるシャン州の小さな村で、8人兄弟の第5子として生まれました。両親は、自分の田畠がないために、日雇いの仕事をしていて、生活にとても困っています。当然子どもたちの学業の為にお金を割くことなど出来ません。また、紛争などの影響により、治安も良くないため、両親と一緒に生活できない子どもを預かってくれる僧院に兄とサンバンを預けて、学校に通えるようにすることが精一杯でした。



<サンバンからのメッセージ>

私は、兄とともに僧院の仕事を手伝いながらなんとか学校に通っています。ダルニー奨学金の支援を得ることが出来た時は、とても感激しました。奨学金のおかげ



で、勉強を続けることが出来るようになり、今は一生懸命に勉強をしています。そして大きくなったら、先生になり、今住む村へ帰って私のように学校へ通うことが困難な子どもたちを助けることが私の夢です。そして、あらためて、奨学金を与えて下さった皆様に心より感謝を申し上げます。

【ラオスの奨学生】

～家族みんなで家事を分担しています～

カムアン県に住むシアンカ（中学4年生）は、両親と3人の兄弟で、とても小さい小屋のような家に住んでいます。一部屋しかなく、家族みんなでそこで暮らしているので、食事や団らん、そして就寝まで家族一緒に過ごします。

彼女の家族は、みんな朝4時30分から5時の間に起床し、分担して家事を行います。朝に行う家事は、家の掃除、水汲み、洗濯、朝食づくりです。朝食は、家の近くでカエルなどの小動物が捕れれば、それを食べます。しかし、いつも捕れるとは限りません。

朝食を終えると、彼女は水浴びに行きます。水浴びといつても、部屋の中にあるわけではありません。サロン（スカートのように体に巻く腰布）を巻いて、家の外にあ



学校の廊下で

る汲んだ水で体を洗います。

ラオスでは、義務教育は無料です。それでも学校に通うことのできない子どもが多くいる理由は、制服、本、教材を自分で負担しなければならないからです。シアンカの両親も貧しく中学校には通えませんでした。彼女は奨学金を得て中学校に通うことができています。教育は彼女の両親まで続いた貧困の連鎖を断つことができるでしょう。

民際力 マンスリーサポートについて

民際センターでは、民際力 マンスリーサポートを広く皆様にご支援頂いております。

民際力 マンスリーサポートとは、今までプロジェクトの一つとして民際センター・サポートプログラムをご支援頂いていましたが、それを継承していること、内容は同等のものを毎月定期的にご支援頂くプログラムです。

下記にある、民際センターの重要な事業の柱の一つとして位置付けられています。

A) ダルニー奨学金（指定寄付）

メコン5か国の中学生を対象とした奨学金事業

B) プロジェクト事業

教育関連に特化した、奨学金以外の事業で、通学自転車支援プロジェクトや少数民族教師育成プロジェクト、女子寮建設や校舎・教室建設、学校教材や図書支援プロジェクトなど

C) 民際力 マンスリーサポート事業

民際センターでは、すべての収入を寄付のみでまかなっており、税金を財源とする国や地方自治体からの補助金は一切受け取っていません。税を財源とする補助金で事業を行うのではなく、皆様の浄財で皆様と一緒に民際センターの活動を広めるものです。民際力 マンスリーサポートとは、補助金（税を財源）の代わりに皆様からのご支援を頂くプロジェクトです。

民際力 マンスリーサポートについて

民際センターは、1987年設立、日本生まれの政治・宗教色のない、経済的に貧しく学校に通えない子どもたちに、教育支援を行う公益財団法人 国際協力NGOです。

メコン5か国（タイ、ミャンマー、カンボジア、ベトナム、ラオス）に対して奨学金を初めとする教育関連の支援を31年以上一貫して実施し、民の力により、教育支援を通じて、貧困削減と平和構築をサポートする市民に支えられた国際協力支援団体です。民際力 マンスリーサポートは、

このような民際センターの活動そのものをご支援頂くプログラムになります。

活動目的：民による民のための民際協力

A) 民際力（民間

ガイニシア
ティブを取

る民間同士の交流）こそが、これからの日本や世界にとって重要であり、持続可能な開発目標（SDGs）を実現することを可能にする。

B) 民際力（税による公共サービスでなく）寄付

による公共サービスを理念とし、寄付社会を目指し、日本の発展と平和貢献を実現する。

C) 民際力（民の力）による、教育支援を通じて、世界の貧困削減と平和構築を実現する。



活動内容

ダルニー奨学金や民際センタープロジェクトのように、特定の目的を持った支援では無く、民の力として皆様からのサポートにより、あらゆる分野の教育的課題を総合的に解決する“面”的支援です。すべての子どもたちが夢や希望を抱いて学校に通い、教育を受けることができる社会づくりに向けた活動をサポートいただくプログラムになります。

- 民際センターの活動を広めるための支援
- 日本及び対象国等の自然災害における緊急・復興支援
- 支援対象国の教育の現状を調査するための支援



- ・民際センターの活動全般を支援
- ・EDF各事業所の活動全般を支援

活動報告

- ・民際センターからお礼状（サンクスメール、登録完了メールなど）
- ・ニュースレター（年2回発行の刊行物「ダルニー通信」）
- ・メールマガジン（民際センター情報満載「民際センターNEWS」の配信版）

対象地域



支援方法

- ・ホームページより、クレジットカードによるご支援。毎月自動継続。
一口/月 1,000円、2,000円、3,000円、
5,000円、10,000円 のご支援より選択。
- ・ダルニー奨学金支援時における、郵便払込・追加寄付・単発の民際力サポート支援も可能。
是非皆様の民際力マンスリーサポートへの温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。
お問合せ、ご質問等は事務局までお願い致します。

公益財団法人 民際センター
事務局長 南谷 勝典

事務所 移転の お知らせ

新住所

〒103-0023

東京都中央区日本橋本町2-6-13 山三ビル7階

最寄駅

- ・三越前駅(東京メトロ銀座線・半蔵門線) 徒歩6分
- ・新日本橋駅(総武快速線) 徒歩6分

公益財団法人 民際センターは、2018年7月23日に事務所を移転しました。

気持ちを新たに、職員一同頑張っていきたいと思います。

今後とも応援よろしくお願い申し上げます。(電話番号に変更はありません。)



2018年分の領収書発行について

弊団体への寄付金は、確定申告の際に寄付金控除を受けることができます。確定申告の際に、弊団体発行の領収書が必要となります。

弊団体では、ご支援の都度ではなく、1年分を一括で領収書を発行しています。

2018年中に皆様からご支援いただいた寄付金の領収書発送は、2019年1月下旬を予定しています。それ以前に領収書発行を希望される方は、弊団体までお問い合わせください。

洪水被害への支援活動

～ラオスのダム決壊～

「Please help. (助けてください。)」



土砂に埋まつた村

わらず多くの厚志が寄せられました。

ラオス事業所の職員は、被災者の方々の要望に応じて、洋服、靴、毛布、米、乾物、歯みがき等のアメニティ、飲料水やシン（ラオス女性の民族衣装である腰巻スカート、正式な場面や仕事で着用される非常に重要なもの）等を3台のトラックに満載し被災地に赴きました。被害にあった時期、ラオスは雨期で、降り続く雨や決してよくない道路事情のため、被災地に近づくことは困難を極めました。また、ダムからあふれ出た水で、道路はほぼ寸断しているため、被災地につくと、政府、近隣国がヘリコプターやボートで応援に駆け付け、終わりない救助に取り組み続けている様子が見てとれました。今回の災害では少なくとも20名が命を落とし、100名以上が行方不明、6,600名以上の方が避難生活を余儀なくされました。（出典 BBC NEWS JAPAN 2018年7月25日現在）

民際センターが呼びかけた緊急支援募金のお願いでは、急なお願いにも関わらず多くの厚志が寄せられ、それらは、ラオス事業所の職員が運んだ支援物資や物資を運搬したトラックのレンタル



被災地の子どもたち

夏の日の朝、民際センターラオス事業所長カムヒアンから短いメールが届き、追ってラオス南部アタッパー県サナムサイ郡でダムが決壊し多くの人々が被害にあわれている事、ラオス事業所の職員は被災者救済のために、事業所のあるビエンチャンで募金活動を行い、車で十数時間かかる被災地に向かうとの報告がありました。日本の民際センターでは、ラオス事業所の支援要請を受け、ホームページ上で緊急支援募金のお願いを行いました。急なお願いにもかか



支援物資を運んだラオス事業所職員

費用やガソリン代に充てられました。日本でも、豪雨災害や台風被害にあう中、皆様の他の国への心温まる支援には、同じ日本に暮らすものとして職員一同誇らしく思うと共に深く感謝申し上げる次第です。今後は緊急支援ではなく、復興支援として教育関連への影響を鑑み、学校関連の支援を検討していく予定です。ご支援くださいました皆様、心よりお礼を申し上げます。

文化祭「ぎんが祭」におけるバザーの売り上げによる支援



長野県松本蟻ヶ崎高等学校

本校で毎年7月に行われるぎんが祭（文化祭）では、民際センターを通じたダルニー奨学金によるカンボジアの子供たちの支援を目的とし、地域住民の皆様から物品を提供していただき、バザーを行っております。この取り組みは10年以上続く歴史あるもので、ぎんが祭の一つの目玉にもなっています。毎年、地域住民の約700軒を1軒1軒訪問し、バザーの主旨の説明とチラシを配り物品の提供を呼び掛けます。物品の回収は放課後を2日間使い係の生徒を総動員し、教員も車を出して大きな物品や数量が多い場所を手伝い運びます。物品は日用雑貨がメインでタオルや食器など様々なものがあります。中にはソファーや木の彫刻、掛け軸などお宝も提供されます。

今年度は生徒と考え、新しい取り組みとして、保護者の方々にも協力を呼びかけ、物品を提供していただきました。集まった物品を代表の生徒が会場のレイアウトを工夫し、多くの品物をお客様が手に取りやすいように係の生徒全員で協力して陳列しました。また、これまで支援してきたカンボジアの子



準備の様子

供たちの写真を掲載し、来場した方々にカンボジアの子供たちについて知っていただけるように工夫しました。文化祭当日は朝からバザーを楽しみにしている地域住民の列ができ、文化祭の開始とともに多くの方々が会場にお越しいただき、28万円の売上を出すことが出来ました。生徒は「目標の30万円には届かなかったけれど、接客・レジ・品出しなど多くの仕事を通して日本とカンボジアの繋がりを感じる事が出来たし、やり切った感がある。」と話していました。来年度はさらに多くの寄付ができるように工夫していきたいです。



陳列の様子

事務局活用リスト

事務局では様々な資料やサービスを用意して支援者の皆様

のお問い合わせやご要望にお応えしています。

※ご利用につきましては、以下の要領でご連絡ください。

民際センターのボランティア活動がしたい

翻訳、P C入力、D T P、ホームページ作成、事務作業などのボランティア活動を希望する方を募集しています。
電話またはメールでお問い合わせ下さい。

遺贈に関する話が聞きたい

民際センターでは、遺贈（遺産・相続）による寄付を受け付けています。皆様のご遺産や相続による財産をお預かりし、未来を担う子どもたちへの教育普及支援事業に活かすためです。お気軽にお問い合わせください。
専門委員とともに待ちしています。ホームページよりのお問合せも可能です。

奨学金の説明を聞きたい

お電話またはメールにてお問い合わせください。ご説明させていただきます。

毎年忘れずに支援したい

民際センターホームページよりクレジットカードによる寄付にて自動継続による引き落としをご選択ください。
(すでにご支援をされている方で、途中から自動引き落としにすることも可能です。お問い合わせください。)

タイの奨学生と文通したい

①手紙の翻訳

①日本語↔英語に翻訳します。手紙の原本と返信用の82円切手一枚を同封してください。メールにても受け付けています。

②タイ切手の購入

②タイ切手セット(12枚分1,000円)の代金は郵便定額小為替か現金書留でお願い致します。

82円切手を貼った返信用の封筒も同封してください。

民際センターの運動に参加したい

①書き損じはがきの収集

ホームページでご案内しています。また、電話またはメールでもご説明していますので、お気軽にお問い合わせください。

②インターネットチャリティーへの参加

●●●お知らせ●●●

～書き損じはがきで支援ができます！～

年賀はがきを購入したけれども使用しなかった、印刷を間違ってしまった等、

未使用のはがきで子どもたちの支援ができます。

詳しくは、お電話またはメールにてお問い合わせください。ホームページでもご案内しています。

編集 後記

7月、ラオス南部のダムの決壊による洪水被害の一報がラオス事務所から入り、その後、民際センターも緊急支援の募金活動を行いました。ラオスの被災地に心を寄せられる方々のご厚意に胸が熱くなりました。ラオスの職員、そして何よりも被災者の方々が心から感謝しています。担当者として、皆様の優しい気持ちに囲まれて仕事をしている幸せを感じました。(山)



公益財団法人
民際センター

ダルニー通信83号 2018年12月1日発行 発行人：秋尾晃正
公益財団法人 民際センター 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-6-13 山三ビル7F
TEL:03-6457-5782 FAX: 03-6457-5783
Eメール: info@minsai.org ホームページ: http://www.minsai.org
ゆうちょ銀行振替口座: 00160-7-664928